

しゅん ふう
春風を以って人に接し

しゅう そう
秋霜を以って自ら肅む

佐藤 一斎

他人には春風のような
暖かさで接し
秋の霜のような厳しさで
自己反省する

『言志後録』
（『言志四録』の一書）

佐藤 一斎

江戸時代後期の儒者。人物としては博識・温厚篤実、朱子学のみならず陽明学にも長けており「陽朱陰王」とも呼ばれた。一斎の思想は己れを律する姿勢を窺わしめるものとして幕末武士の間で名声高く、門人には渡辺華山・佐久間象山など多数おり著書『言志四録』から影響を受けた人物に吉田松陰・西郷隆盛がいる。

「上巳の節供」への誘ひ「知識への神道」

三月三日の「桃の節供」のことを古くは上巳の節供と呼び、春を壽ぎ無病息災を願う厄祓い行事でした。上巳（旧暦三月最初の巳の日）は季節の変わり目で、災いをもたらす邪気が入りやすいと考えられていたため、この日に紙や草で作った人形（ひな）で自分の体をなで、穢れ（ひが）を移した人形を川や海へ流して厄を祓っておりました。人形作りの技術が発展し高級化してくるにつれ、流す人形から飾る人形へと変化し、女の子の「ひな祭り」として定着しました。桃の木は古くから邪気を祓う神聖な木とされ、桃の花を供え無病息災を祈ります。

神社は心のふるさと
未来に受け継ごう「美しい国ぶり」

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp>



今月の祭日

春季皇霊祭（春分の日）

宮中三殿のうち皇霊殿において、歴代天皇・皇族の御霊へのお祭りが行われます。天皇皇后両陛下をはじめ皇族方がご拝礼なされます。